



<市町村探訪>

活性化の主役は“人”

人の集まる元気な街は、店の魅力づくりから(常陸太田市)

～ 中心市街地活性化のとりくみ ～

【はじめに】

常陸太田市の中心市街地は、高台という立地条件から、自動車に対応した道路施策が困難であったことに加え、店主の高齢化や後継者不足、更には、都市基盤整備の遅れにより、かつての求心力が低下し、商店数の減少とともに商店街の空洞化が進んでいます。市町村合併に伴い新しい市としての中心市街地を再定義する必要性から「中心市街地活性化基本計画(1)」を策定し、市全体に支持される中心市街地を形成することが拠点都市として発展を図る上からも必要であると考えました。



(1 : 中心市街地活性化基本計画とは)

平成 10 年 7 月「中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する法律(略称：中心市街地活性化法)」が施行され、関係省庁による支援体制の整備が促進してまいりました。中心市街地活性化基本計画とは、この法律に基づき策定される計画をいいます。

この計画は「市街地の整備改善」と「商業等の活性化」を軸とした、総合的なまちづくりのための指針となります。そして、この指針に基づき事業者・市民・行政等の連携により、総合的なまちづくりが進められることが求められています。

【中心市街地活性化基本計画策定のとりくみ】

策定員会では、ブレインストーミング(2)の手法により会合を重ね、中心市街地に対する委員各々の想いを、更に公募によるワークショップ(3)でも参加者の想いを整理し、計画書を策定しました。

こうして作られた基本計画は、これまでに作られた計画書とは違い、街づくりを考える時いつも傍らに置き活用できる「まちづくりの辞典」を目指して作成されました。

(2 : ブレインストーミングとは) 出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

ブレインストーミングは発想支援法のひとつ。ブレインストーミング法(BS 法)ともいう。自由に意見を出し合い、あるテーマに関する多様な意見を抽出する。質より量を重視し、お互いの意見に批判をせず、自由に意見を出し合うことで、周辺知識を列挙することができる。

(3 : ワークショップとは) 出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

問題解決やトレーニングの手法である。近年は企業研修や住民参加型まちづくりにおける合意形成の手法としてよく用いられている。ワークショップはファシリテーターと呼ばれる司会進行役の人が、参加者が自発的に作業をする環境を整え、参加者全員が体験するものとして運営されることがポピュラーな方法である。



【街づくりに向かって】

こうして作られた報告書の提案を受けて、5月20日～21日の両日、中心市街地（商店会域）の活性化を考える『街・店を元気にするまちづくりセミナー』（主催：常陸太田市商工会、同商店会連合会）が「国土交通省美しい国土づくりアドバイザー」、東京大学 堀繁教授（p14にプロフィール掲載）を講師に迎え開催されました。

堀教授は、夫婦で参加した商店会々員、行政関係者を前に、「車優先ではない人間中心の道づくり」や「ホスピタリティ・ディベロップメント（もてなしの開発）の整備手法」を紹介し、「人（客）を大事にする『ホスピタリティ表現』は、活性化には欠かせない極めて重要な概念」と熱く語られました。

具体的には、商店の最も目立つ場所のホスピタリティ表現として、植物による「挨拶の装置」、照明・ベンチ・のれん等の「迎客の装置」、商品メニュー・料金・キャッチコピー等の「集客の装置」など「三種の神器」ともいえる装置を配置する手作りの「もてなし」表現の提案をして下さいました。

【動き出した商店街】

この堀教授の提案に感銘した商店会々員は、自分たちにもできる「人を大切にする『もてなし』の表現」として、小黑板に各店の個性を生かした商品メニュー・目玉商品・料金表などのキャッチコピーを書き込み「集客の装置」として、店頭を設置しています。

また、商店街から消えて久しい「七夕飾り」を夏の風情を醸し出す装置として提案し、商店会・市商工会、そして行政が協働で七夕飾りを作成、中心市街地に位置する商店街への飾り付けもおこなわれました。

このセミナーを契機として、中心市街地の商店も、行政も少しずつ変わりつつあるようです。

問い合わせ先

常陸太田市商工観光課商工係

TEL0294(72)3111 内線 217

